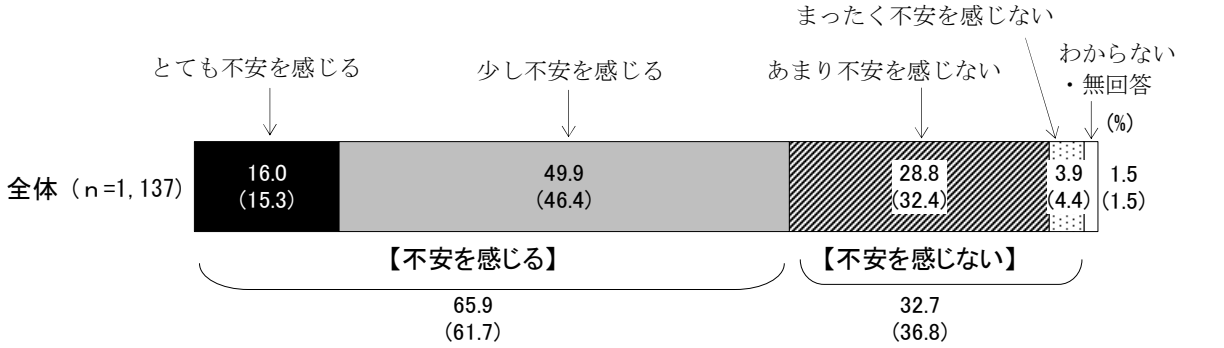
Ⅵ　食の安全

１．食の安全に対する不安感

（１）食の安全に対する不安感

―【不安を感じる】が６割台半ば―

問13　あなたは，食の安全について不安を感じていますか，それとも感じていませんか。次の中から１つだけ選んでください。



※(　　)内の数値は，平成23年の調査結果

食の安全に対して，「とても不安を感じる」（16.0%）と「少し不安を感じる」（49.9%）を合わせた【不安を感じる】（65.9%）が６割台半ばとなっている。一方，「あまり不安を感じない」（28.8%）と「まったく不安を感じない」（3.9%）を合わせた【不安を感じない】（32.7%）が３割を超えている。

前回調査と比べると，【不安を感じる】が約４ポイント増加し，【不安を感じない】が約４ポイント減少している。

―【不安を感じる】は女性の50代から60代で７割台半ば―

地域別でみると，【不安を感じる】は，県北（68.2%）で約７割と最も高く，すべての地域で６割台となっている。

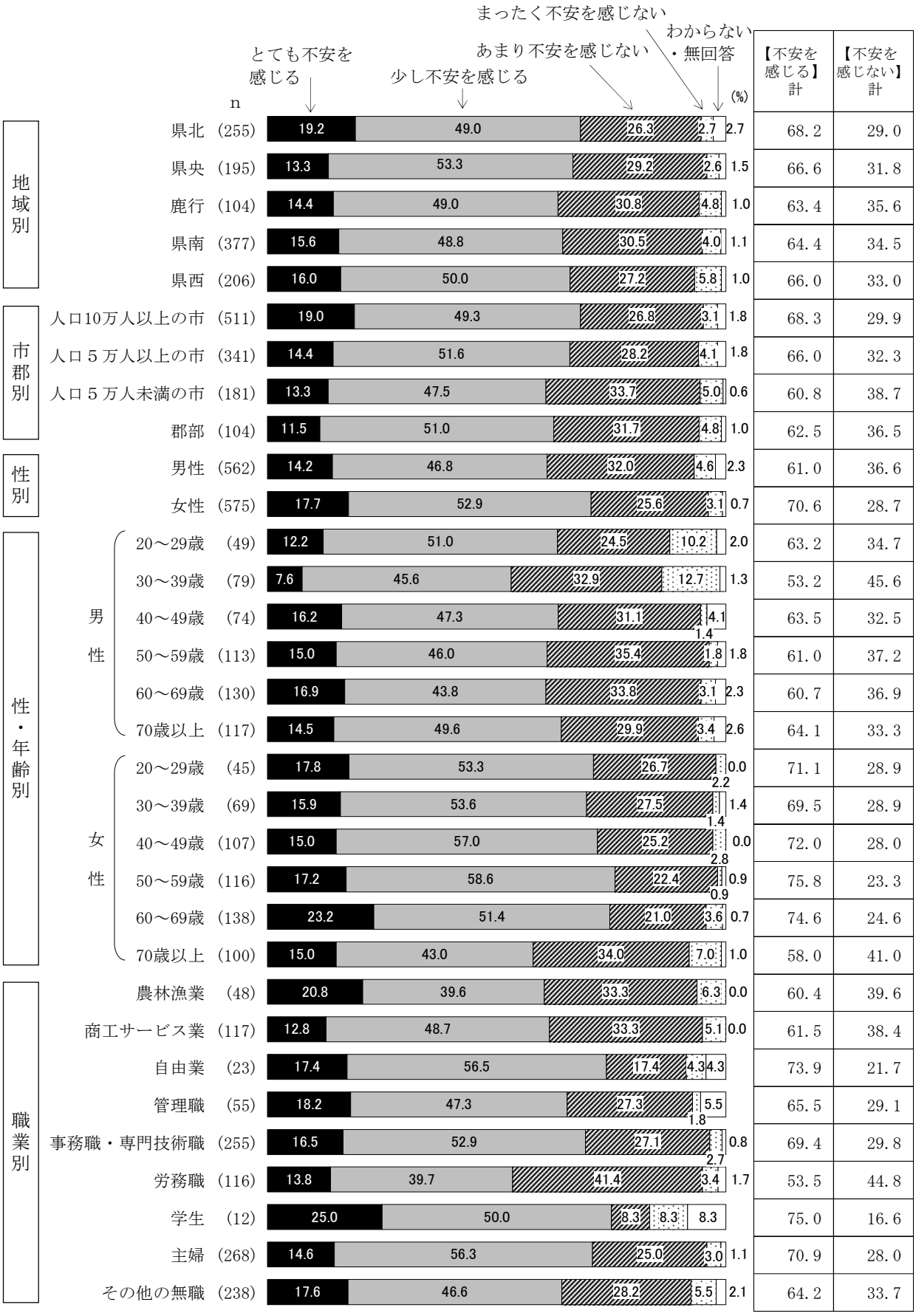
市郡別でみると，【不安を感じる】は，人口10万人以上の市（68.3%）で約７割と最も高く，すべての層で６割台となっている。

性別でみると，【不安を感じる】は，女性（70.6%）が男性（61.0%）よりも約10ポイント高くなっている。一方，【不安を感じない】は，男性（36.6%）が女性（28.7%）よりも約８ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると，【不安を感じる】は，男性では30代（53.2%）以外のすべての年齢で６割台となっている。女性では50代（75.8%）と60代（74.6%）で７割台半ばと高く，20代（71.1%）と40代（72.0%）で７割を超えている。

職業別でみると，【不安を感じる】は，事務職・専門技術職（69.4%）と主婦（70.9%）で約７割と高くなっている。

図Ⅵ　13－１　食の安全に対する不安感（地域別，市郡別，性別，性・年齢別，職業別）



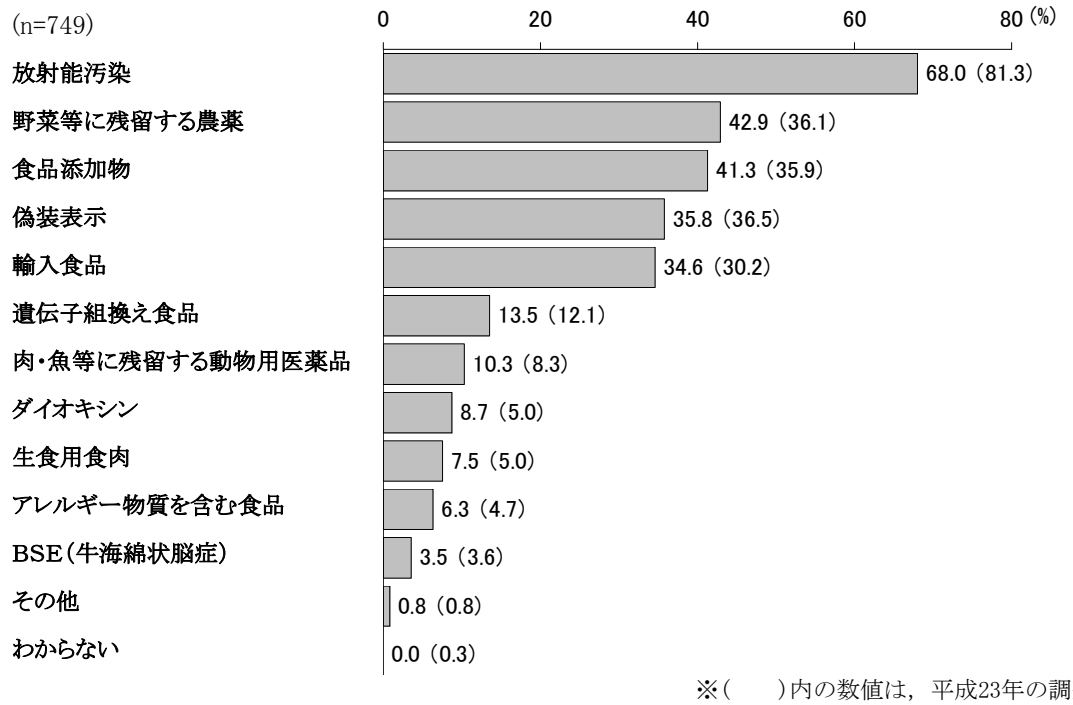
（注）自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

（２）食の安全について不安に感じること

―「放射能汚染」が約７割―

（問13で，「１．とても不安を感じる」か「２．少し不安を感じる」と回答した方のみ）

問13－１　あなたは，食の安全について，主に何が不安ですか。次の中から３つまで選んでください。



※（　　）内の数値は，平成23年の調査結果

食の安全に【不安を感じる】と回答した方に，不安を感じることを聞いたところ，「放射能汚染」（68.0％）が約７割と最も高く，次いで「野菜等に残留する農薬」（42.9％），「食品添加物」（41.3％）が４割を超え，「偽装表示」（35.8％），「輸入食品」（34.6％）が３割台半ばで続いている。

前回調査と比べると，「放射能汚染」が約13ポイント減少し，「野菜等に残留する農薬」が約７ポイント，「食品添加物」が約５ポイント，「輸入食品」と「ダイオキシン」が約４ポイント，「生食用食肉」が約３ポイント増加している。

―「放射能汚染」は女性の20代で８割台半ば―

地域別でみると，「放射能汚染」は，鹿行（78.8%）で約８割と最も高くなっている。「野菜等に残留する農薬」は鹿行（37.9%）以外のすべての地域で４割台となっており，「食品添加物」は県西（48.5%）で約５割と最も高く，県央（41.5%）と県南（42.8%）で４割を超えている。また，「偽装表示」は県南（42.8%）で４割を超え，「輸入食品」は県央（45.4%）で４割台半ばと，それぞれ最も高くなっている。

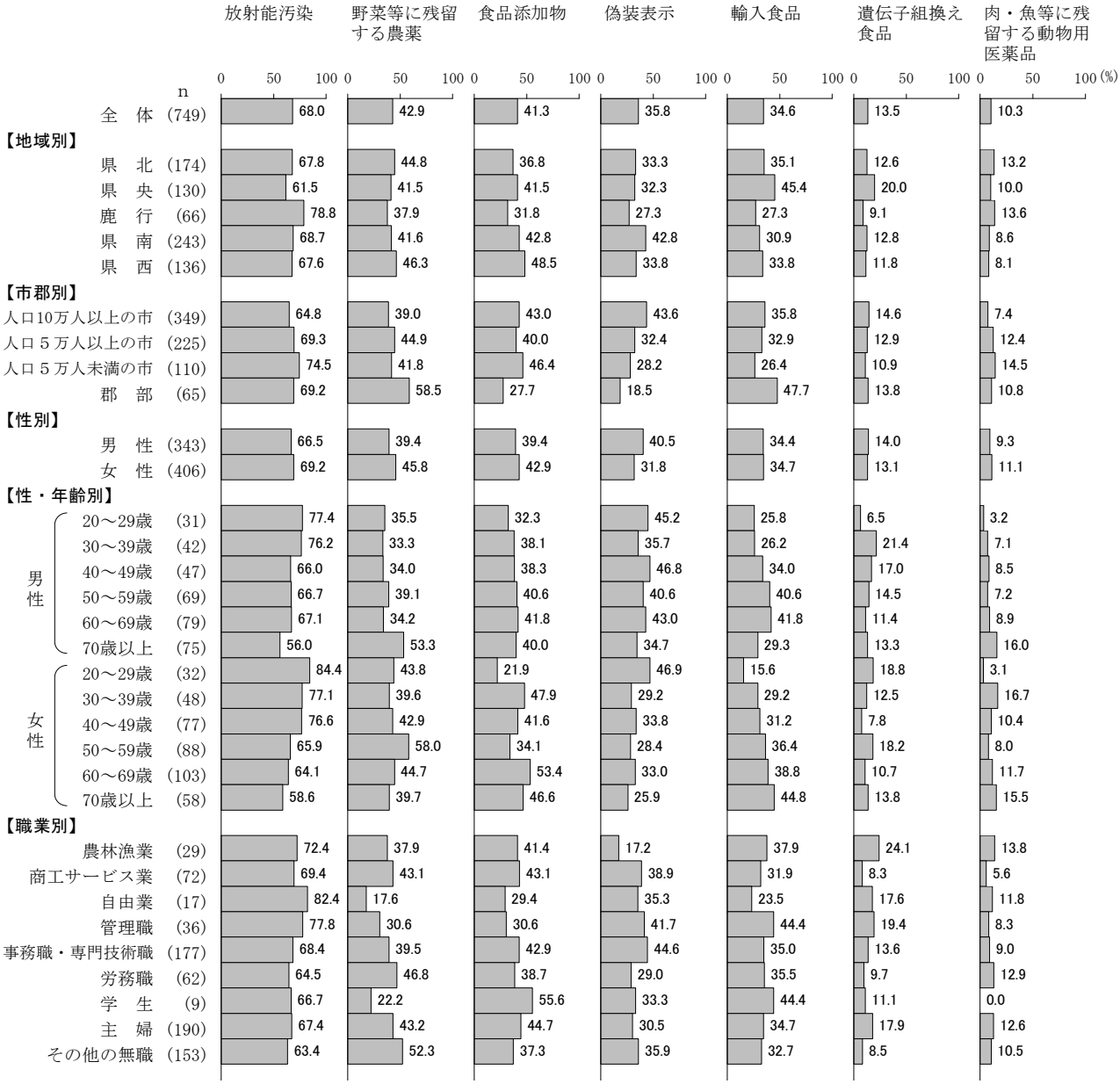
市郡別でみると，「放射能汚染」は人口５万人未満の市（74.5%）で７割台半ば，「野菜等に残留する農薬」は郡部（58.5%）で約６割と，それぞれ最も高くなっている。「食品添加物」は，郡部（27.7%）以外のすべての層で４割台となっている。「偽装表示」は，人口10万人以上の市（43.6%）で４割台半ばと最も高く，人口が少なくなるほど低くなっている。また，「輸入食品」は郡部（47.7%）で約５割と最も高くなっている。

性別でみると，「偽装表示」は，男性（40.5%）が女性（31.8%）よりも約９ポイント高くなっている。一方，「野菜等に残留する農薬」は，女性（45.8%）が男性（39.4%）よりも約６ポイント高くなっている。また，「食品添加物」は女性（42.9%）が男性（39.4%）よりも約４ポイント，「放射能汚染」は女性（69.2%）が男性（66.5%）よりも約３ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると，「放射能汚染」は，男性では20代（77.4%）と30代（76.2%）で７割台後半となっている。女性では20代（84.4%）で８割台半ばと最も高く，30代（77.1%）と40代（76.6%）で７割台後半となっており，女性では年齢が上がるほど低くなっている。「野菜等に残留する農薬」は，男性の70歳以上（53.3%）で５割台，女性の50代（58.0%）で約６割と高くなっている。また，「食品添加物」は女性の60代（53.4%）で５割台半ばと最も高くなっている。

職業別でみると，「放射能汚染」は，管理職（77.8%）で約８割と最も高く，それ以外のすべての職業で６割台となっている。「野菜等に残留する農薬」は，その他の無職（52.3%）で５割を超えて最も高くなっている。

図Ⅵ　13－１－１　食の安全について不安に感じること
（地域別，市郡別，性別，性・年齢別，職業別－上位７項目）

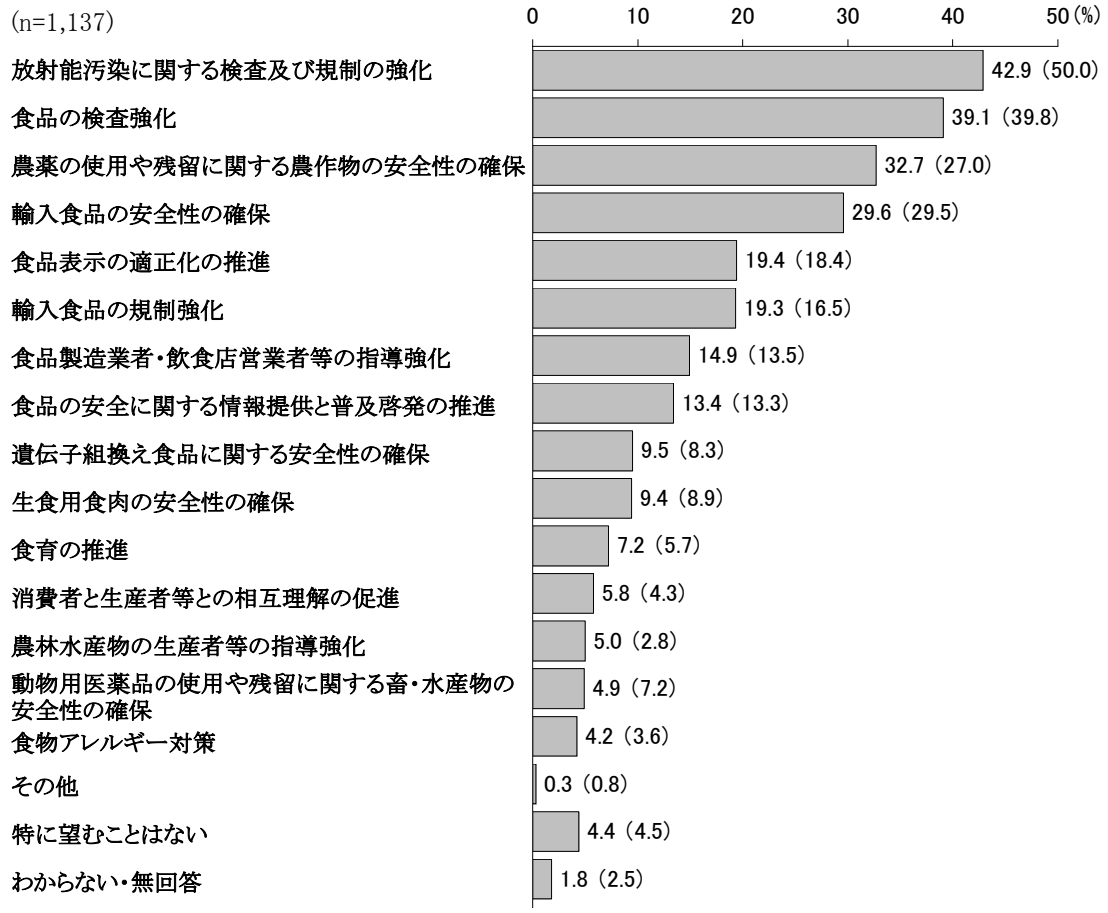


（注）農林漁業，自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

２．県に望む食の安全対策

―「放射能汚染に関する検査及び規制の強化」が４割を超えている―

問14　あなたは，県に対して，食の安全への対策として主にどのようなことを望みますか。次の中から３つまで選んでください。



※(　　)内の数値は，平成23年の調査結果

食の安全への対策として県に望むこととしては，「放射能汚染に関する検査及び規制の強化」（42.9%）が４割を超えて最も高く，次いで「食品の検査強化」（39.1%）が約４割となっている。また，「農薬の使用や残留に関する農作物の安全性の確保」（32.7%）が３割を超え，「輸入食品の安全性の確保」（29.6%）が約３割で続いている。

前回調査と比べると，「農薬の使用や残留に関する農作物の安全性の確保」が約６ポイント増加し，「放射能汚染に関する検査及び規制の強化」が約７ポイント減少している。

―「放射能汚染に関する検査及び規制の強化」は男性の20代と女性の30代で５割台後半―

地域別でみると，「放射能汚染に関する検査及び規制の強化」は，県西（48.1%）で約５割と最も高く，鹿行（37.5%）以外のすべての地域で４割台となっている。「食品の検査強化」は，県南（41.6%）で４割を超えて最も高く，それ以外の地域で３割台後半となっている。

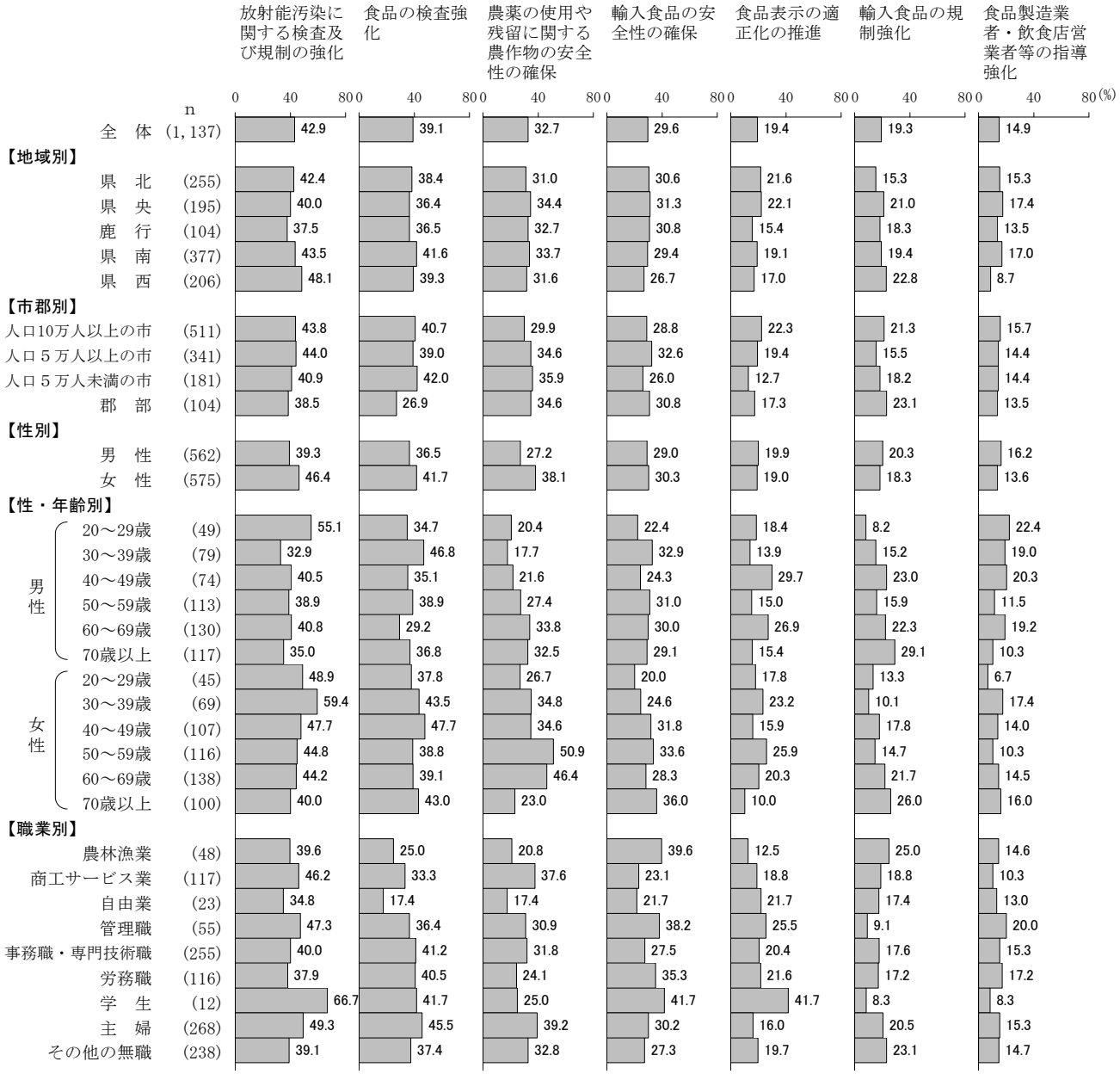
市郡別でみると，「放射能汚染に関する検査及び規制の強化」は，郡部（38.5%）以外のすべての層で４割台となっており，「食品の検査強化」でも，郡部（26.9%）は最も低くなっている。また，「農薬の使用や残留に関する農作物の安全性の確保」は，人口10万人以上の市（29.9%）以外のすべての地域で３割台半ばとなっている。

性別でみると，「農薬の使用や残留に関する農作物の安全性の確保」は，女性（38.1%）が男性（27.2%）よりも約11ポイント高くなっている。また，「放射能汚染に関する検査及び規制の強化」は，女性（46.4%）が男性（39.3%）よりも約７ポイント，「食品の検査強化」は，女性（41.7%）が男性（36.5%）よりも約５ポイント高くなっている。一方，「食品製造業者・飲食店営業者等の指導強化」は，男性（16.2%）が女性（13.6%）よりも約３ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると，「放射能汚染に関する検査及び規制の強化」は，男性では20代（55.1%）で５割台半ばと最も高くなっている。女性では30代（59.4%）で約６割と最も高く，20代（48.9%）と40代（47.7%）で約５割となっている。「食品の検査強化」は，男性の30代（46.8%），女性の40代（47.7%）で４割台後半と高くなっている。また，「農薬の使用や残留に関する農作物の安全性の確保」は，女性の50代（50.9%）で約５割と最も高く，60代（46.4%）で４割台半ばとなっている。

職業別でみると，「放射能汚染に関する検査及び規制の強化」は，商工サービス業（46.2%），管理職（47.3%），主婦（49.3%）で４割台後半と高くなっている。「食品の検査強化」は，主婦（45.5%）で４割台半ばと最も高くなっている。また，「農薬の使用や残留に関する農作物の安全性の確保」は，商工サービス業（37.6%）と主婦（39.2%）で約４割，「輸入食品の安全性の確保」は，農林漁業（39.6%）と管理職（38.2%）で約４割と，それぞれ高くなっている。

図Ⅵ　14－１　県に望む食の安全対策
（地域別，市郡別，性別，性・年齢別，職業別－上位７項目）



（注）自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。